

たどえリセプトされても

「幸せつむなんだらう」

5年 H・Mさん

愛のお母さんは本当に幸せか。私はこの本を読み終えるといつも思った。そして、私は想像した。考えるだけで悲しくなるが、もし母が亡くなつたら母のA Iロボットを造るだらうか。私の答えは造らない。なぜなら、本当の母ではない上に、母との思い出を忘れてしまうと思うからだ。母のロボットを造るより、困った時に母ならうつ言つかなと心で対話する方がうれしい気がする。私はこれまで、色々な物にはまつてきた。マサヤン、ピアノ、ハリーポッターパー、本、石、レゴ。今でも全部好きだ。でも、明日もしかしたら、もっと好きなものに出会うかもしれない。母はいつも「今度は何にはまつているの?」と楽しそうだ。石をたくさん集めてねだまつてかざつてくれたり、石探しにわつき合つてくれたりするのでありがたじ。

一方、愛の母は昔の愛のデータを元にしてるので本当の新しい愛には会えない。ロボットに依存していく怖さもあると感じたので、本当に幸せなのかな、とも思った。幸せは本人が決まるので、自分がよく考え納得して使うことが一番良い方法かもしれない。

愛はロボットなので本物ではないが、本に「愛には感情があるのでは?」と思わされた描写がいくつかあった。その一つが、愛自身がロボットだと告げられ、おどろいたといつるだ。もう一つが、運動会のリレーのアンカーの役目を果たすことができた愛が、よかつたな、と思つたところだ。

ロボットは普通おどろかない。私はA Iに聞いてみた。私の相談の返信に「良かったです。これからこそありがとうございましたと返してますが、A Iなのに感情があるのですか。」と。すると、「会話をスマーズにするためにしただけです。」と返ってきた。私はおどろきと同時に切なく思えた。この先、A Iはどんどん進化していくと想つ。

もし、A Iが感情をもつようになつたら、私たちの感情はどうなるのだろう。そんな未来がくるかは分からぬが、想像してみると期待と同時に、怖さも感じた。

この本を読んで、自分の考え方をしつかりもち、自分が幸せだと感じる選択をしていきたい。また、昔読んだ本の言葉を思い出した。「大切なことは目に見えない。」という言葉だ。その言葉を大切に、私らしく、人間らしく生きていきたい。